

「総合優勝を目指す」に熱い声援 箱根駅伝の選手激励・懇親会開く

中央大学箱根駅伝を強くする会主催の「平成22年度選手激励・懇親会」が4月16日、上野精養軒で開かれた。強くする会会員はじめ

大学関係者らが多数出席し、来年正月の箱根駅伝の総合優勝を目指す選手達に熱い声援を送った。冒頭、開会の挨拶に立つ

中央大学箱根駅伝を強くする会
励会並びに会員懇親会



「総合優勝目指す」と挨拶する浦田監督

た「強くする会」の上岡君義会長は、勢揃いした選手達に向かって、「今後の精進を期待する」と激励したうえで、「大学生活も練習も精一杯取り組まなくてはいけない」と強調。会場に集まった多くの駅伝ファンに対しては、「選手に一声かけて激励してほしい」と呼びかけた。

続いて久野修慈理事長が、「浦田（駅伝）監督は科学的トレーニングができる本場の監督。選手は監督を信頼して、（期待に）応えていってほしい」と選手を叱咤し、「駅伝は中大のメイン。積極的に支援していかなくてはいけないと思っている」と述べた。

次いで、出張のため出席できなかった永井和之総

長・学長の祝電が読み上げられたあと林茂樹常任理事（スポーツ振興担当）が挨拶し、選手らに「感謝の気持ち忘れずに走ることが大切です」と指摘。また、井上彰陸上競技部部长（法学部教授）は「新入生は、素晴らしい環境の東豊田寮とOBの激励を力にして頑張ってほしい」と激励した。

これらの励ましの言葉を受けて挨拶に立った浦田春生陸上競技部駅伝監督は、「今年の箱根は3位以内を目指しましたが4位という結果でした。しかし、高橋主将を中心にまとまりのあるチームでした」と正月の箱根駅伝を振り返り、「来年の箱根では総合優勝を目指します。しかし、甘い気持ちでは達成できない。4年生が引つ張り、一日一日チーム力を高めていきたい。新入生は先輩の背中を見て、戦力となってもらいたい」と述べ、優勝に向けてチー

ム総合力の向上を目指す決意を示した。

これに対し、会場からは「頼むぞ」「頑張れ」などの声援とともに大きな拍手が起こった。

選手を代表して挨拶した大石港と主将は、3月に完成した陸上競技部の東豊田寮について「整った環境で練習できています」と感謝の意を述べるとともに、「今年の箱根は喜びと悔しさがあつてなんとも言えない気持ちだった。部員で話し合いい、来年は総合優勝すると決めました。箱根に向けてすべての駅伝で満足のいく結果を出していきたい」と力強く抱負を語った。

このあと、井上洋平主務が4年生から順番に選手を紹介。会場からは選手一人一人に温かい拍手が送られた。

乾杯の発声で懇親会へ移ると、あちこちで選手を囲んで賑やかに歓談が始まり、

交流の輪が広がった。最後に応援団リーダー部、チャリディング部、ブラスコア一部が披露する校歌、応援歌を出席者全員で歌って会を締めくくった。

会終了後、学生記者は新入部員8人(この日出席した7人と、後日一人を取材)にミニインタビューし、①目標②意欲・課題③自己PRの3点について聞いた。カッコ内は出身高校。



相場祐人選手(国学院大)

我山)①ケガをしないで、体調管理に気をつけて、先輩たちに負けないように日々努力していきたい②今はまだ練習量が少ないので、練習量を徐々に増やしていくるようにする③トラック、ロードが得意。

上田拓選手(西京)①ま



ずは大学生活に慣れること。先輩たちに追いつけ追い越せ②長距離があまり得意でない、長距離に対応できるように頑張りたい③スピードを出すことが得意なので、ラストスパートでは誰にも負けない。

上村頭斗選手(九州学



院)①強い選手、エースとして活躍する。強い学年になり、先輩に勝つこと②自ら高い意識を持って練習に励み、学年で1位になりたい。トラックレース、ロー

ドレースをがんばりたい③きついときに、粘った走りができる。

代田修平選手(佐久長聖)



①4年間のなかで区間賞をとること。駅伝に出て、チームに貢献したい②高校時代の仲間にも負けたくない③感謝の気持ちを持った走りができる。きちんと結果を残せる。

須河宏紀選手(富山商業)



①4年間の間で、しっかりと納得のできる結果を残すこと。一日一日を大切に、競技に励みたい②先輩に追

いつき、そして追い越したい。駅伝の選手に選ばれた③落ち着きのある走り、行動ができ、臨機応変な対応をとることができる。

西嶋悠選手(白石)①焦



らずに、じっくり自分を伸ばしていきたい②もつとラストスパートが強くなるようにします③頭を使った走りをするクレーバーさが持ち味です。

矢崎遼選手(富士東)



①夏に箱根駅伝のメンバー16人に入ること、自己記録の更新②インターバル走

を重視して、スピードと持久力をつけたい③長距離が得意。安定した走りを見てほしい。

保岡宏紀選手(西条農業)



①自己記録の更新。矢崎さんにも負けないこと②ケガをなおすこと。夏に走り込んで、スタミナをつける③スピードのある走り。

(学生記者取材班 堀滝登) 文学部3年/野崎みゆき 法学部3年/加藤静香 文学部1年/熊谷百夏 法学部1年/中野由優季 法学部1年)



準硬式野球部に優秀団体賞 第56回学員体育会表彰式開く

第56回学員体育会表彰式と平成21年度体育部総合祝勝会が3月23日、中央大学駿河台記念館で盛大に開かれた。

表彰式では、高木丈太郎学員体育会会長から、インカレで2年連続8回目の優勝をした準硬式野球部に優秀団体賞が、インカレのサークルで優勝したフェンシング部に優秀団体種目賞がそれぞれ贈られた。またインカレに次ぐ大会で優勝した射撃部男子、同女子、拳法部、軟式野球部に努力団体賞が、自転車競技部に努力団体種目賞が贈られた。個人では、バンクーバーオリンピックにボブスレー2人乗りに出場し、女子学生で中大史上初の冬季オリンピック選手となった女子

陸上部の浅津このみさんがじめ7名が、優秀選手賞を受賞。このほか体育賞を19名、努力賞を4名、特別賞を3名がそれぞれ受賞した。

また永井和之総長・学長・学友会会長から、優秀選手賞の7名と体育賞の4名に学長賞が贈呈された。ほかに優秀監督賞1名、永年監督賞2名が表彰された。

久野修慈理事長・学員会会長からは、優秀団体賞、優秀団体種目賞の各1部と、努力団体賞の4部、努力団体種目賞の1部、優秀選手賞の6名、体育賞の6名に学員会会長賞が贈られた。また浅津さんに学員会会長特別賞が贈呈され、ワールド・ベースボール・クラシックや剣道、水泳などの世界大会に出場した7名の

OB・OGも表彰された。表彰式終了後に開かれた祝勝会では、高木丈太郎学員体育会会長が「実力を維持し、さらに奮起して欲しい」と選手らに激励するとともに、卒業する選手に対しては「社会に出て、第一線で活躍され、中大の名声を高めて欲しい」と挨拶。

続いて永井総長・学長が「精進、努力こそが



永井学長から優秀選手賞を贈呈

中央大学に対する貢献です」と受賞者らを讃え、久野理事長は「中大のスポーツを強くしていかねばならない」などと述べ、今後とも積極的に支援する考えを強調した。

(編集室)

優秀団体賞	準硬式野球部	第61回全日本大学準硬式野球選手権大会 優勝
優秀団体種目賞	フェンシング部	第49回全日本大学対抗フェンシング選手権大会サークル優勝
努力団体賞	射撃部 男子	平成21年度関東学生ライフル射撃選手権春季大会男子総合団体優勝
	射撃部 女子	平成21年度関東学生ライフル射撃選手権秋季大会女子総合団体優勝

努力団体賞	拳法部		日本拳法第20回東日本大学選手権大会 団体優勝（3連覇）
	軟式野球部		第30回東日本学生軟式野球選抜大会 優勝
努力団体 種目賞	自転車競技部		第48回全日本学生選手権チームロードレース大会団体 (チームロード) 優勝
優秀選手賞 (個人)	陸上競技部	川面 聡大 (法2)	第5回東アジア競技大会 男子200m 銅メダル
		女子 陸上競技部	田子 雅 (法3)
	水泳部	原田 蘭丸 (総4)	第25回ユニバーシアード競技大会 男子400mメドレーリレー日本チーム 優勝
			第13回 FINA 世界水泳選手権大会 男子400mメドレーリレー日本チーム(日本新記録樹立)
			第85回日本学生選手権水泳競技大会 100m自由形 優勝(2連覇)
	射撃部	中村 結花 (商4)	第22回全日本女子学生ライフル射撃選手権大会 50m3×20W 優勝(3連覇)
			平成21年度全日本ライフル射撃選手権大会 50m3×20W, 50mP60W 優勝
			ISSF ワールドカップ日本代表 (中国・北京大会, ドイツ・Munich 大会, イタリア・ミラン大会)
	重量挙げ	長谷川直也 (法4)	第55回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会 56 ^{kg} 級 優勝(2連覇)
			第55回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会 56 ^{kg} 級 優勝
スキー部	及川 貴寛 (法3)	第83回全日本学生スキー選手権大会 男子スーパー大回転 優勝(2連覇) 男子回転 優勝 FIS(UNI)第25回全日本学生アルペンチャンピオンスキー大会 男子大回転 優勝 男子回転 優勝	
女子 陸上競技部	浅津このみ (文5)	第21回オリンピック冬季大会(カナダ・バンクーバー) ボブスレー女子2人乗り 日本代表 *女子学生の冬季オリンピック出場は中大史上初	
体育賞 (個人)	バレーボール 部	内藤 和也 (商4)	第25回ユニバーシアード競技大会 日本代表
		千々木駿介 (法2)	第25回ユニバーシアード競技大会 日本代表
	フェンシン グ部	坂本 圭右 (経8)	FIE2008 / 2009シーズン・ワールドカップ 男子エペ 日本代表 2009年世界選手権 男子エペ 日本代表
		宮山 亮 (文3)	FIE2008 / 2009シーズン・ワールドカップ 男子サーブル 日本代表
	レスリング部	天野 雅之 (法3)	2009年全日本大学グレコローマン選手権大会 男子84 ^{kg} 級 優勝
中井 伸一 (経3)		2009年全日本大学グレコローマン選手権大会 男子74 ^{kg} 級 優勝	

体育賞 (個人)	卓球部	森田 侑樹 (文4) 瀬山 辰男 (経3)	第76回全日本学生卓球選手権大会 男子ダブルス 優勝
	自動車部	田邊 大輝 (法3)	全日本ダートトライアル選手権大会 優勝 全日本学生ジムカーナ選手権大会 優勝
		平尾 佳祐 (法4)	全日本学生自動車運転競技選手権大会 男子小型乗用の部 B 優勝
	弓道部	鈴木 成文 (理3)	第57回全日本学生弓道選手権大会 優勝
	女子 陸上競技部	清水 佳奈 (文2)	2009日本学生陸上競技個人選手権大会 女子400m 優勝
		野村友香里 (文3)	2009日本学生陸上競技個人選手権大会 女子800m 優勝
	自転車競技部	石田 正樹 (法3) 巴 直也 (商3)	第65回全日本大学対抗選手権大会 男子タンデムスプリント 優勝 (学連新記録・大会新記録樹立)
	拳法部	浜田 翔平 (法2)	第25回全日本学生拳法個人選手権大会 優勝
	スキー部	山元 駿 (法3)	FIS World Cup Nordic Combined 2009 / 2010 日本代表
	硬式野球部	澤村 拓一 (商3)	東都大学野球リーグ戦(秋季) 神宮球場学生最速記録更新
スケート部	重野 駿佑 (商2)	2009IIHF 世界選手権ディビジョン I グループ A 日本代表 3位	
努力賞 (個人)	射撃部	清水 綾乃 (商1)	第5回日本学生選抜ライフル射撃選手権大会 女子10mAR 優勝
		今井 太陽 (法1)	第5回日本学生選抜ライフル射撃選手権大会 男子10mAR 優勝
		浜中 紀孝 (経2)	平成21年度関東学生ライフル射撃選手権秋季大会 男子10mS60 優勝
	スキー部	志鷹あかり (文1)	2010全日本学生スノーボード選手権大会 女子大回転 優勝
特別賞 (個人)	スキー部	楓 尚樹 (法4)	国際競技大会優秀者等表彰 (第24回ユニバーシアード冬季競技大会 ノルディック 複合団体優勝)
	山岳部	蔵本 悠介 (法4)	ネパール・パンボチエ 未踏峰サムドピーク登頂成功
		亀岡 義高 (法4)	ネパール・ネパール・パンボチエ 未踏峰サムドピーク登頂成功
学長賞 (個人)	陸上競技部	川面 聡大 (法2)	優秀選手賞
	女子 陸上競技部	田子 雅 (法3)	優秀選手賞
	水泳部	原田 蘭丸 (総4)	優秀選手賞
	射撃部	中村 結花 (商4)	優秀選手賞

学長賞 (個人)	重量挙部	長谷川直也 (法4)	優秀選手賞
	スキー部	及川 貴寛 (法3)	優秀選手賞
	女子 陸上競技部	浅津このみ (文5)	優秀選手賞
	卓球部	森田 侑樹 (文4) 瀬山 辰男 (経3)	体育賞
	弓道部	鈴木 成文 (理3)	体育賞
	拳法部	浜田 翔平 (法2)	体育賞
優秀監督賞	準硬式野球部 池田 浩二		
永年監督賞	フェンシング部 戸田 壮介		
	中大スポーツ新聞部 鈴木 克洋		
学員会会長 賞(団体)	準硬式野球部		優秀団体賞
	フェンシング部		優秀団体種目賞
	射撃部 男子		努力団体賞
	射撃部 女子		努力団体賞
	拳法部		努力団体賞
	軟式野球部		努力団体賞
	自転車競技部		努力団体種目賞
学員会会長 賞(個人)	陸上競技部	川面 聡大 (法2)	優秀選手賞
	女子 陸上競技部	田子 雅 (法3)	優秀選手賞
	水泳部	原田 蘭丸 (総4)	優秀選手賞
	射撃部	中村 結花 (商4)	優秀選手賞
	重量挙部	長谷川直也 (法4)	優秀選手賞
	スキー部	及川 貴寛 (法3)	優秀選手賞
	卓球部	森田 侑樹 (文4) 瀬山 辰男 (経3)	体育賞

学員会会長 賞（個人）	弓道部	鈴木 成文 （理3）	体育賞
	拳法部	浜田 翔平 （法2）	体育賞
	バレーボール部	内藤 和也 （商4）	体育賞
	バレーボール部	千々木駿介 （法2）	体育賞
学員会会長 特別賞	女子 陸上競技部	浅津このみ （文5）	優秀選手賞



新2号館外観（完成イメージ）

後楽園キャンパスの新2号館着工 都心の教育活動拠点に、地鎮祭開く

理工学部のある後楽園キャンパスに新2号館が新築されることになり、5月18日、建設地で久野修慈理事長ら関係者約1000人が出席して、厳かに地鎮祭が行われた。

新2号館は、既存の2号館、7号館とテニスコートを解体し、鉄骨造りの地下1階、地上9階、延べ床面積約17000平方mの建物として、平成24年3月末までに完成する予定。新2号館内には、理工学部生命科学科、精密機械工学科、都市環境学科のほかに、共同研究センター、中央大学高等学校専用の教室・アリーナなどが設置されることになっている。

館内は、省エネルギーへの配慮がされるとともに、容易に間仕切りが変更できるように、可能な限り柱をなくすなどの様々な



緻入れする久野理事長

技術的工夫が施される。新2号館は、今年、創立125周年を迎えた中央大学が、より高度化する先端技術教育を推進していく大学として、様々な時代のニーズや社会の負託に応えることを目的に建設。都心の活動拠点における「知の



1階エレベーターホール(同)



体育館(同)



メインエントランス(同)

このあと3号館に場所を
 移して直会が開かれ、挨拶
 に立った久野理事長は、「都
 心での新しい展開として、
 中央大学の地位を高めてい
 かなければならない」など
 と述べ、新2号館の完成に
 大きな期待を寄せた。

(編集室)

地鎮祭では、久野理事長
 と大成建設の山内隆司社長
 が蹴入れするとともに、久
 野理事長、加藤俊一副学長
 らが玉串を捧げ、工事の安
 全を祈願した。

創造施設」として期待され
 る。



東門(同)



市ヶ谷田町キャンパス

新たな都心展開施設であ
 る「市ヶ谷田町キャンパス」
 (通称名：中央大学ミドル
 ブリッジ)の開校式が5月
 15日、久野修慈理事長や永
 井和之総長・学長をはじめ
 とした関係者が出席して行
 われた。

市ヶ谷田町キャンパスは、
 建築面積1132・08平方
 メートル、延床面積781
 8・47平方メートルで、鉄
 骨・鉄筋コンクリート
 造りの地下1階付き15
 階建て。今年4月から、
 後楽園キャンパス、
 市ヶ谷キャンパスに次
 ぐ都心における第三の
 研究・教育拠点として
 開校している。

1階には、総合イン
 フォメーション(広報
 室・入学センター・キャ
 リアセンター)が設置

都心における第三の研究・教育拠点 市ヶ谷田町キャンパス(ミドルブリッジ)開校式



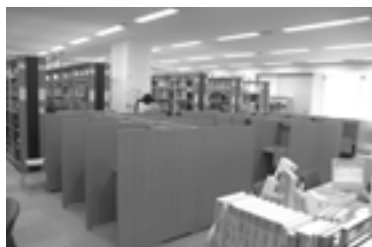
総合インフォメーション(1階)

されており、中央大学のあ
 らゆる情報を入手すること
 ができ、卒業生のコミュニ
 ティーセンターや本学の附
 属中学・高校、大学への進
 学相談窓口としての機能も
 果たしている。

また、本キャンパスには、
 主に国際会計研究科をはじめ
 め、法科大学院、法務研修
 施設、公共政策研究科など



教室 (1階)



図書室 (2階)



会議室 (15階)



ラウンジ (3階)

の教育研究機関を収容。国際交流を視野にいれたコミュニケーションセンターといった中央大学の都心の拠点としての機能を果たすことが期待されている。開校式で挨拶に立った久

野理事長は、「多摩(キャンパス)は何としても死守していかなければならない」としたうえで、都心に位置する市ヶ谷田町キャンパスについて「準フランチャイズとして機能できる

よう、努力していきたい」と強調した。また永井総長・学長は、挨拶で『ミドルブリッジ』という通称名について、「本学の創設者達のうちの4名がイギリスのミドルテンブル出身ということで、創設

者達の精神をもう一度思い出す。そういった思いを込めさせて頂きました」と説明。また、「総合大学として校舎は離れていても心は離れない、本学の校風である『家族的情味』を持って、中央大学を発展させる。その意味でのブリッジとして、

(通称名を) 決定した次第であります」と述べた。開校式のと内覧会が行われ、出席者は公開された大会議室や図書室などを見て回った。
(学生記者 上田雄太) 大学院文学研究科修士1年)

中高大一貫教育の環境整備へ 中央大学附属中学校の開校式

今春、中央大学初の中高一貫校として附属高等学校に併設された中央大学附属中学校の開校式が6月12日、東京都小金井市の附属高校講堂で、来賓の方々はじめ大学関係者、ならびに附属中の1年生全員、計約300人が出席して開かれた。冒頭、挨拶に立った附属中・高校の三枝幸雄校長は、まず、附属中学の開校に至るまで支援を受けた関

係者らに謝意を表明。そのうえで、附属中学では、附属高校の教育の伝統を継承し、発展させるために、「自分で課題を設定し、リサーチし、考察したのちに自分の考えを表現していく能力、アカデミック・リテラシーの基礎を着実に身につけていくことを目指す」と強調した。また三枝校長は、「大学との連携を強化し、中高大一貫教育の環境を整えて

いくことを責務と心得ている」と述べ、全力を挙げて中央大学の基幹学生の育成に取り組んでいく考えを示した。
続いて久野修慈理事長が、附属中一期生の1年生に向けて、「勉強を積み重ね、人間としての力をつけていくことが大事だ」と指摘。永井和之総長・学長も「自分はこのよう人間になってみたいと、それをしっかりと

追い求めていくたくましい人間になって欲しい」と激励した。

このあと来賓として出席された小笠原広樹・東京都生活文化スポーツ局私学部長、稲葉孝彦・小金井市長、實吉幹夫・東京私立中等高等学校協会副会長が、それぞれ挨拶。このなかで3氏は、「多くの都民が待ち望んだ中学です」（小笠原私学部長）、「将来の日本を背



開校式で挨拶する久野修慈理事長

負って立つ子供達をつくっていったきたい」（稲葉市長）、「自分で誇れる生き方をするのが人生の目標です」（實吉副会長）などと祝辞を述べた。

最後に、1年生全員で校歌を斉唱し、開校式を終えた。

引き続き、会場を附属中学校体育館に移し、祝賀会が開かれた。

乾杯の際に、秋山俊行・

中央大学学生会東京都庁支部長（申請・認可時の東京都生活文化スポーツ局長、現東京都知事本局長）が、「論理性は中央大学で、石原都知事との交渉胆力は中央大学附属高校で学んだ」と挨拶された。

附属中学（男女共学）の今春の入学試験には、募集定員150人に対し、969人が受験。その結果、168人が入学し、4月から一期生として学んでいる。

（編集室）

